

平成24年1月31日

日本将棋連盟山形県支部連合会

支部長 各位

支部連合会

副会長兼幹事長 花輪正明

支部連合会新年会会議録

1. 日時 平成24年1月28日(土) 15時より
 2. 場所 天童市天童温泉 ほほえみの宿滝の湯
 3. 会議内容(司会 石井事務局長)
 - ・開会挨拶 山口雅則県連会長
 - ・来賓あいさつ 山形新聞社編集局長 山川敏春氏
日本将棋連盟 青野照市九段
(紹介) " 熊坂 学五段
 4. 会議(座長 山口県連会長)
 - 1) 今年度日程など(花輪副会長兼幹事長(以下幹事長))
 - ・4月7～8日に予定していた県将棋順位戦について、支部対抗・シニア名人戦東日本大会と重なったため、3月31日～4月1日に変更した。
 - ・第4回東北六県会長会議をマイナビ女子オープン戦に合わせて、4月20日(金)に滝の湯ホテルにて開催する。
 - ・県将棋最強戦について、主催する山形新聞社から1週早めたいとの申し入れがあったが、全国中学選抜将棋選手権の県大会と重なっているため、予定通りにしたい。
→(山形新聞社将棋担当 土屋氏) 現在調整中です。
 - 2) 連合会支部・役員・事務局幹事など(石井事務局長)
添付の連合会支部一覧表により説明、連絡について東根支部がメールによる支部になった。
 - 3) 職場対抗将棋大会について(山形新聞社山川編集局長が概要を、土屋氏が詳細について説明)
 - ・趣旨 … 歴史ある職場対抗将棋大会については、資料の通り地区予選会の出場チームが少なく、山形・上山地区(以下、山形地区)を除くと予選会出場チームがそのまま地区代表となっている地区が多いこともあり、主催者として活性化するような方向を持ちたいとのこと。
 - ・昨年の大会時に山新から申し入れがあった際に、山口県連会長から「秋田での県連会長会議の際に全県団体対抗将棋大会を視察し、参加チームも多く勢いを感じた。山形も何とかしたい。」との意見を出していた。
 - ・現状 … 昨年から出場資格を「1チーム3人で、選手が同一企業、事業所、組合、もしくは関連に所属(OBも含む)」として、参加チームが増えるようにしてきた。しかし、山形地区を除くと増加はなかった。(仕事仲間で3人を揃えることが困難となっているのか)
 - ・東北各県の現状 … 別添のとおり
 - ・県職場団体対抗将棋大会(案)(別添により説明)
- 【山口座長】 意見を求めた。
- 【安藤村山支部長】 参加資格について、同一職場はOKで県名人や選手権者はダメと聞いていたように思う。

- 【花輪幹事長】元々そのようなことは無かった。噂らしい。
- 【安藤支部長】強い人だけで参加も考えられなくもないが、制限なしで良いのか。
- 【山口座長】天童支部で組んだ場合、私や村岡支部長など段位数は多いが、勝てる保証はないと思う。
- 【矢作河北支部事務局長】支部の参加もOKとすると、支部対抗戦みたいになると思うので、名称の変更も生ずるのではないか。
- 【土屋・山新将棋担当】支部の占めるチーム数が多くなることを期待している。
- 【山口座長】今回、オープンの形をとるので無制限でいいのではないか。ただ、極端なチームには規制も必要か。
- 【後藤天童北斗支部長】山形地区予選会の参加数が多いが、みんな参加するのを楽しみにしているようだ。集める方が面白い方で、苦労して集めておられる。芋煮などの料理も出て、楽しい。他の地区でも声かけが必要ではないか。
- 【永澤県連相談役】結論から逆算して考えると、このような方向になるものと思う。他の県では全県一本と思うので、11月23日に県連・山新を挙げてやろうとすることも必要と思うが、色んなことを考えると山形メディアタワーでやるのは困難か。地区代表が集まってやるこれまでの伝統も必要、地区大会の盛況も必要となる。提案された方向に収まると思うが、各地区で盛り上がる方法を全ての地区が賛同してもらいたい。
- 【山口座長】これは山新の叩き台と思うが、この方式でやってみる必要があると思う。会社なんかで2人しかいないと参加できないチームもあると思うが、このようなオープンにしてもらえれば、チーム数は増えると思う。
- 【楢澤新庄支部副幹事長】地区予選から県大会の流れと思うが、地区代表の制約も必要と思う。好きな所から出られるというのはどうか。秋田は大学生が参加できないようにしている。県将棋順位戦を団体戦にしたような大会で、秋田とは違うようなイメージで。
- 【山口座長】秋田は5クラスらしい。クラス分けを山崎会長に聞いたところ、独断でやっているとのことだった。
- 【石井事務局長】地区予選会が盛り上がって参加チームが相当に増えることが予想されるので、県大会は8チームから16チームに増やすことは考えられないか。
- 【山川編集局長】メディアタワーの会場の都合もあるので、現状で実施したい。
- 【石井事務局長】会場の広さも十分あると思われ、大会もスイス式トーナメントにて4回戦で終わることも可能と思うが。
- 【山川編集局長】予選会の参加チームが多くなれば、別の施設を借りて、チーム数を増やすことも考えられる。
- 【山口座長】参加支部の皆さんからの意見を出して欲しい。
- 【村岡天童支部長】天童・東根地区の参加チームが少ないのは恐縮に思う。今後は何とか参加チームを増やしたい。支部からも多く参加させたい。
- 【秋葉東根支部長】東根ではこれまで職場大会に参加していないが、チーム編成を見ると参加しやすいので、会員に話をして参加チームを増やしたい。
- 【荒木上山支部長】上山は以前は参加していた。県大会の地区割りを名人戦と同じようにすることも考えられる。参加チームが増えれば会場を変える方法もあると思う。

【土屋・山新】 地区割りは以前から変わっていないと思う。

【山口村山支部幹事長】 村山市は名人戦などは山形・村山地区、職場対抗は最北地区になっている。県大会が8チームであれば従来通りか。今回やってみて、チーム数が増えたらその時に対応でも良いと思う。

【阿部寒河江支部副支部長】 寒河江・西村山はいつも決まっているチームが多い。参加資格が緩和されればチーム数は増えると思うが、チームには何らかの関連は必要と思う。無制限に組んでは何の大会かとも思える

【後藤支部長】 小学生など年齢制限はないのか。

【土屋・山新】 なくとも良いと思う。

【山川編集局長】 職場対抗を職場団体対抗に名称を変更して、仲間が増えれば活性化されると思う。

【山口座長】 職場団体対抗と聞いても、これまでと変わらないような印象を受けるが。

【土屋・山新】 これまでの34回の伝統も引き継ぎたいので。

【山川編集局長】 職場・団体対抗としましょうか。これまでの流れを引き継ぎながら新たな方向へと踏み出すという意味で。

【全員】 了解。

【花輪幹事長】 基本的に山新さんの意向でやってみたい。

【山口座長】 このような方向で山新さんに協力していきたい。

4) 県連HPの管理運営について（別添の資料により花輪幹事長が説明）

- ・資料のようなHPを開設している。今後の管理運営については、一人でやるのではなく、資料のような役割（案）を考えている。
- ・管理マニュアルを作成中ですので、出来次第に連絡をする。

5) 学生奨励免状について（別添の資料により石井事務局長が説明）

- ・2007年度から、県連に初段2名、二段2名、三段2名分の学生奨励免状が出ている。
- ・当時から初段は小学生名人戦並びに倉敷名人戦の優勝者あるいはそれに準ずる者。二段は中学生選抜県大会並びに天童地区予選会の優勝者あるいはそれに準ずる者。三段は高校選手権者並びに高校竜王の優勝者あるいはそれに準ずる者に差し上げている。
- ・2011年度の予定者は表の通り。
- ・来年度からについては、連盟からの補助金が打ち切られることが確実で、棋士派遣やこの学生奨励免状についても確実なものとなっていない。本日出席の青野九段から教えていただける範囲で教えていただければありがたい。

【青野照市九段】 ご承知の通り、名人戦への朝日新聞と毎日新聞からの年間1億2千万円の協力金が打ち切られることになっている。連盟内でのごたごたが続いており、確かなことは話せないが、棋士派遣や奨励免状についてもハッキリしていない。棋士の給料が下がるなど、相当の影響がでている。

5. 講演会

・青野照市九段

普及活動について。

1. 自治体等への働きかけをやってきた。地方でタイトル戦開催。

天童・大田原・加古川・掛川で開催してもらった。（将棋の町を作る）

海外では、国際フォーラムの開催。（昨年パリで開催）

2. 連盟方針等

子供達への普及を一番に考えている。

小学生の大会参加が増えている（20～30%増）が、女性はなかなか増えない。

お母さんには、将棋を指すと頭が良くなる。このことが浸透している。良いイメージが定着してきた。

海外普及 … 5月31日のNHK クローズアップ現代で放映された。中国北京・上海（50～60万人のファン）で将棋人口が増えている。

上海での普及方法は、1クラスで将棋の授業を行う。その結果そのクラスは算数の成績が他のクラスより良くなった。それで将棋を指す子供達が増えていった。

現在は、日本の奨励会入会よりも中国でプロ組織を結成すべく活動中。

3. 地方からプロ棋士

地方のハンデがある。

奨励会入会は早いほうが良い。中学生では遅い・小学生からのほうが望ましい。

理由は、本物を見る感性が磨かれること。（早い時からが重要）

4. 海外普及

イギリスでは、入門書・雑誌・定跡書等を英訳で本を出している。

インターネットの力はすごく、いままで余り縁がなかった国からも強豪がでてくる。

昨年国際フォーラム（パリ開催）ではいろんな国の選手が出場。レベルも上がっている。

羽生2冠がチェス対戦、相手は世界6～7位のインターマスターに引き分けはすごいこと、地元でも驚かれた。中国は、今後ますます盛んになる。経済界のスポンサーも積極的。

普及には、日本語の壁がある。海外用の国際駒を開発したい。

・熊坂 学五段

1. 仙台のヤマダ電機将棋教室で子供達の指導。50分単位で4回／1日実施。

30名を教えている。

2. 駒の動かし方を覚えた～8級 8枚落ち（駒を取る・飛車角を成る・詰み）

7～6級 6枚落ち（と金を作ることを覚えさせる）

5～3級 4枚落ち（端から破る方法）

2～1級 2枚落ち（全体的な定跡を教える）

2枚落ちで勝てれば初段

3. 子供達への指導

自分が強くなっていることを教える。級を上げてやること。（子供が喜ぶ）

やる気をださせる方法と思う。将棋を楽しみ、今後の財産になるように指導したい。

・質疑応答

1. 10級を5級にするためにはどうすれば良いか？（山口秀一副幹事長より）

青野先生

1. 動かし方を覚える

2. どうすれば勝ちかを教える（詰み）

3. 駒を取る・取られることを教える

4. 駒の損得を教える

5. 数の攻めを教える

6. と金を作ることを教える。

このように、段階的に教えることが良いと思う。

あまり厳しくしないで、ほめながら教えるのがポイント。

初段近くになったら、厳しい指導が良い。

超初心者向けの本を考えている。(2次会で具体的に聞きました。県連HPで紹介します)

6. 懇親会

あいさつ 岡田県連名誉会長

来賓 将棋連盟 青野照市九段

乾杯 村岡天童支部長

中締め 秋葉東根支部長

連絡事項等

1. 支部更新時、支部会員数・役員等の変更は事務局まで連絡をお願いします。
2. 支部独自の大会日程等について、県連HPにての広報が必要であれば連絡をお願いします。
3. 1月30日に連盟の大野木部長から名人戦の解説会について石井事務局長に電話があり、予定されている第3局が5月8日(火)～9日(水)と平日開催になるため、第5局(5月31日(木)～6月1日(金))に変更したいとのことでした。水曜日より金曜日の方が多く集まるのではないかと、という理由のようです。もし、4-0で終わってしまった場合でも棋士派遣はあるとのこと。正式には文書が送られてきてからの対応になりますが、事業計画表は先に修正したものを送らせていただきます。

(以上)